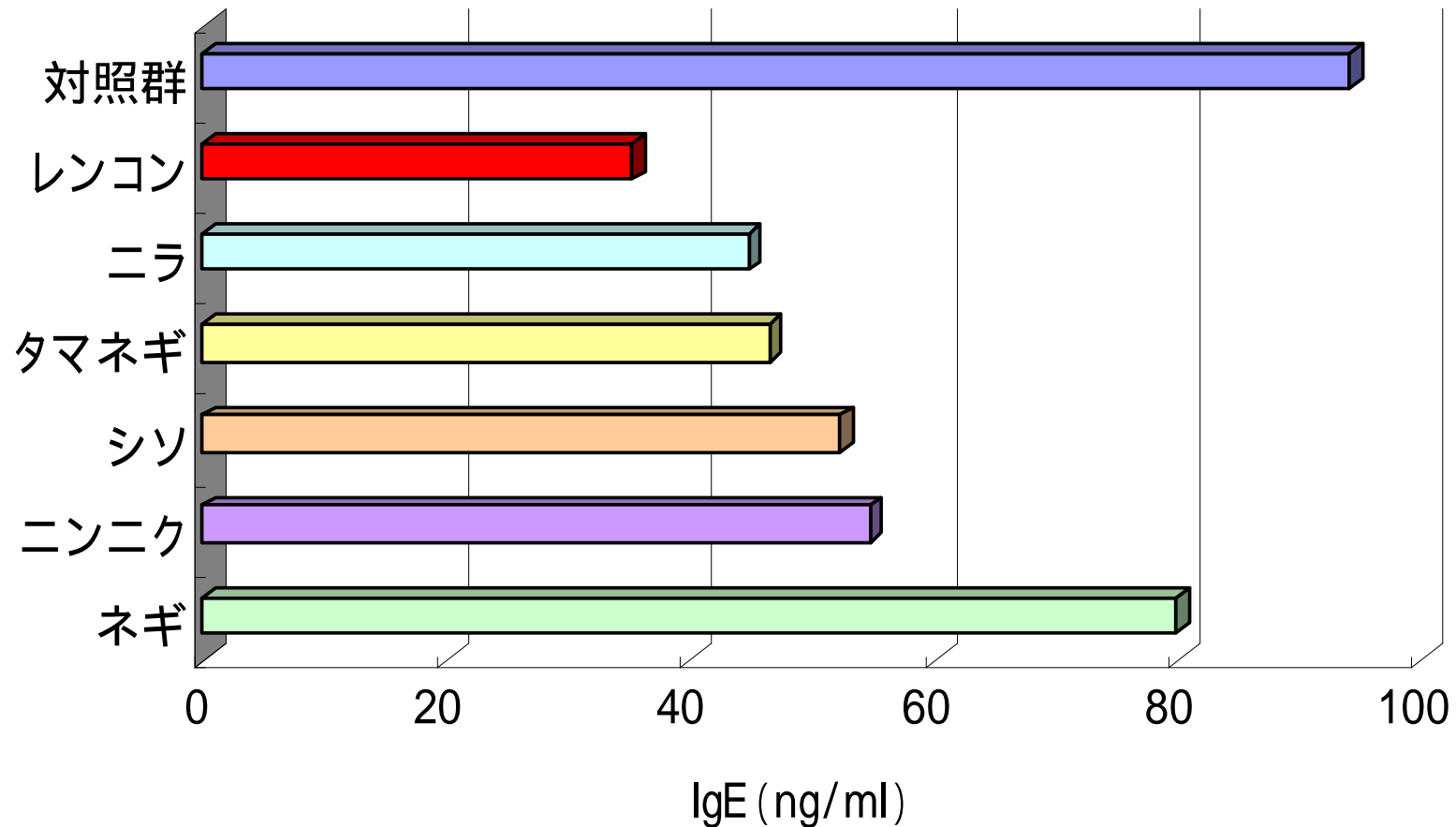


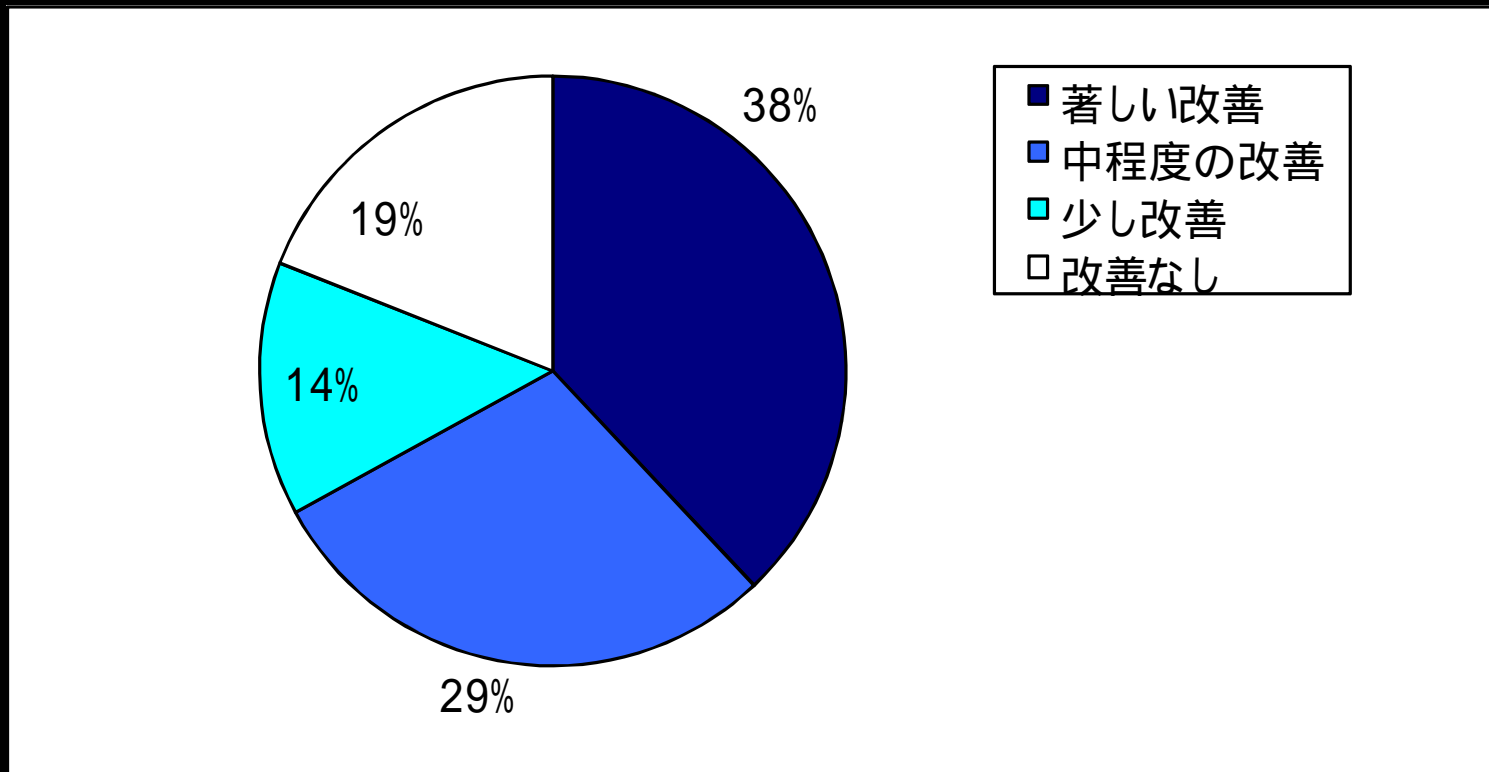
# 6種類の野菜エキスの経口投与が及ぼす マウス血中IgEへの影響



# 花粉症 改善効果 (乳酸菌とレンコン)

2003年2月～4月 (623名、3ヶ月間)  
(埼玉医科大学、日本アレルギー応用研究所 実施)

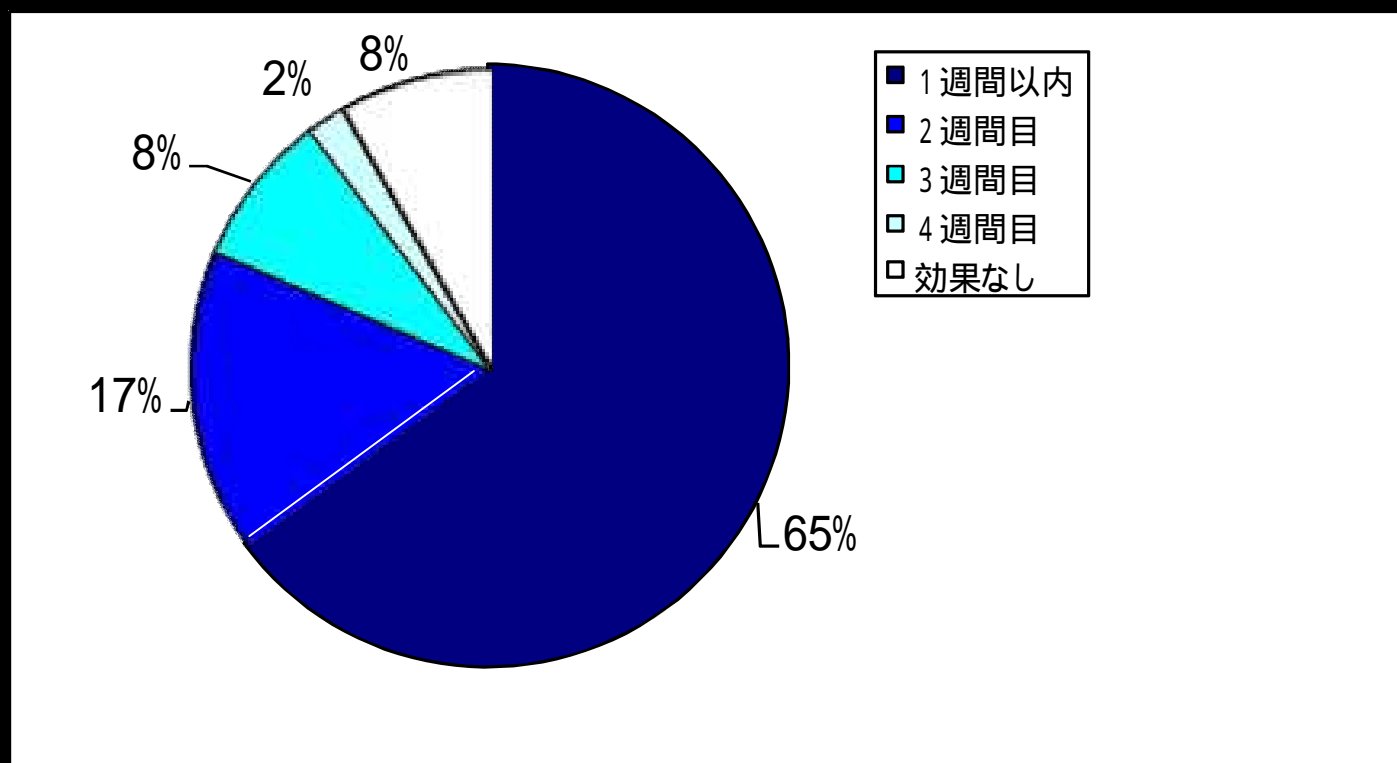
3ヶ月で全体の81%の人に改善効果を確認。



# 便秘症 改善効果 (乳酸菌とレンコン)

2003年2～3月 (100人、1ヶ月)

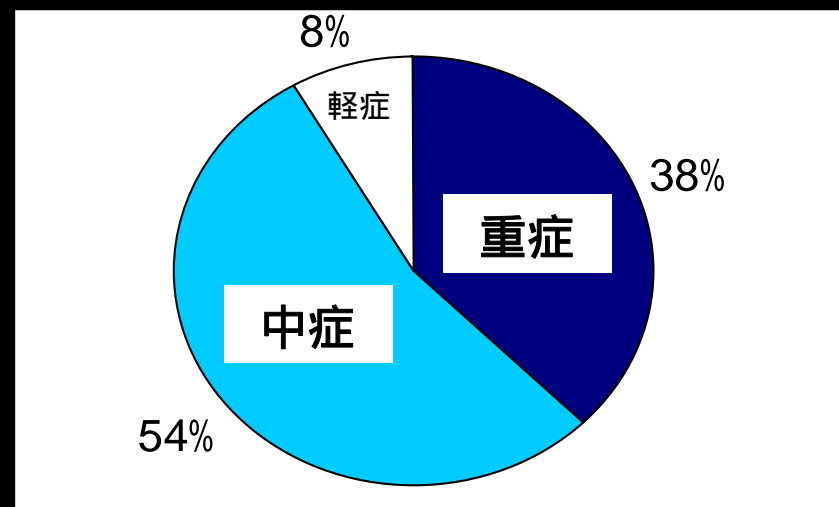
全体で92%の人に改善効果を確認



# 花粉症患者の状態 (臨床テスト開始前)

- 重症患者と薬依存体質の患者を主体にモニターとして採用
- 人数: 合計24人
- モニターの従来花粉症対策  
治療薬(市販の薬を含む)を使用 50%  
健康食品等を常時使用 25%  
対策していない 25%

## 開始前: モニターの花粉症症状



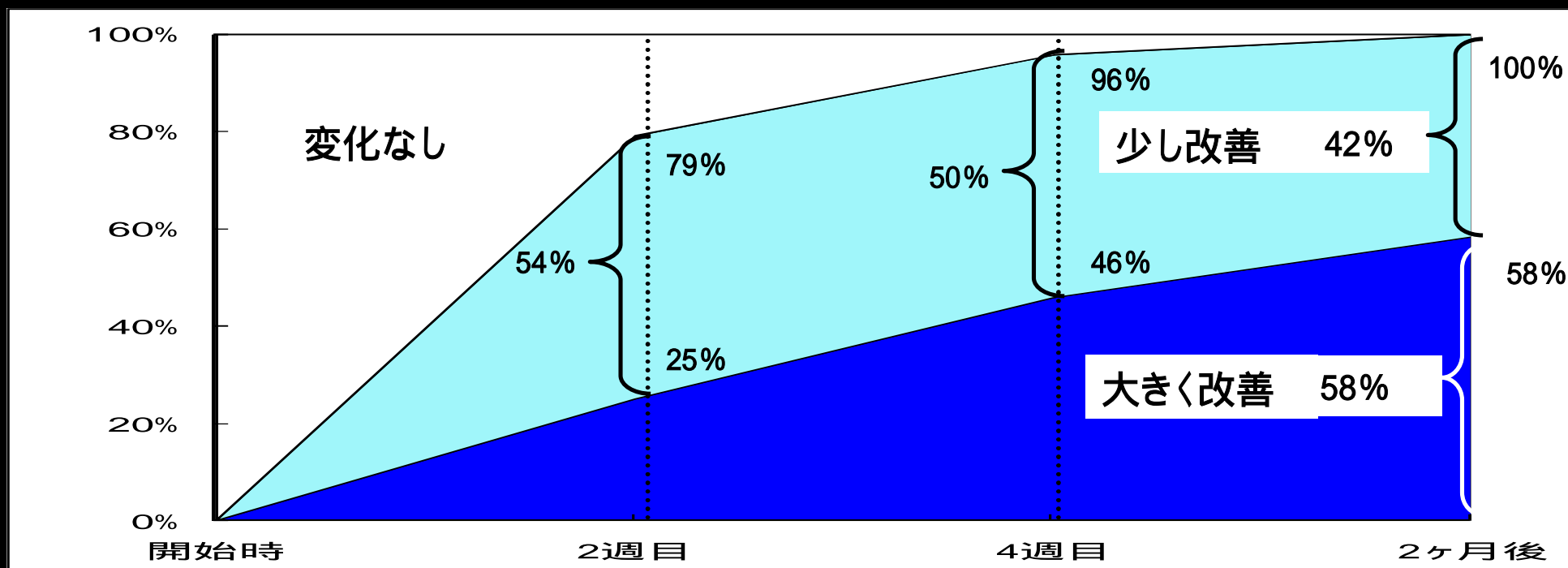
# 花粉症患者の経時変化

(設問) 花粉症の症状は例年と比較して変化はありましたか？

(回答の基準) **大きく改善とは、苦痛が大幅に軽減した。薬品が不要となった。**

少し改善とは、花粉症の症状が例年より改善した。一部の症状が改善した。

変化なしとは、症状は例年と同じで、改善はなかった。



2ヶ月間の結果100%の患者に改善が確認された。

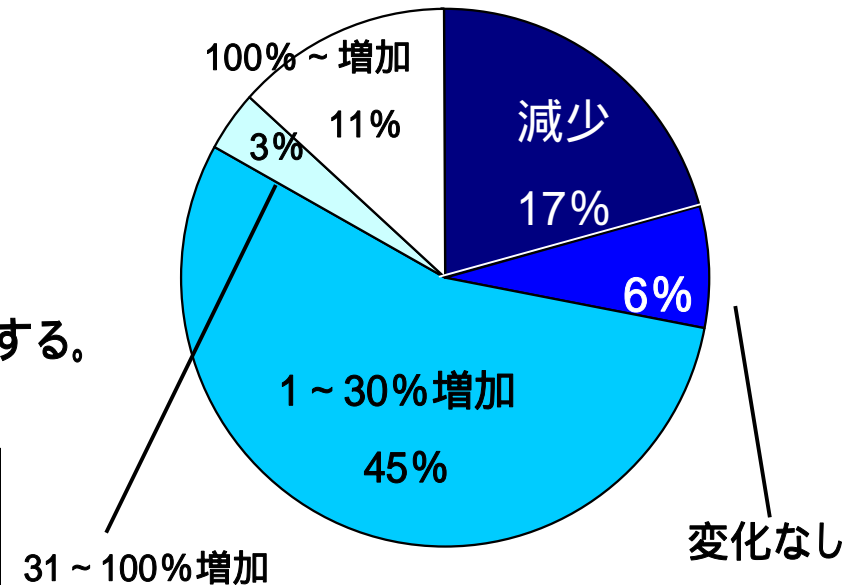
# 花粉症臨床テスト 結論

## IgE抗体濃度の変化について

花粉症シーズンでは、IgE抗体濃度が通常4～6倍増加する。

本件臨床テストの参加者は3倍以上になった人はいなかった。

濃度が逆に減少した方が、4人中1人がいたことは注目に値する。



## 結論

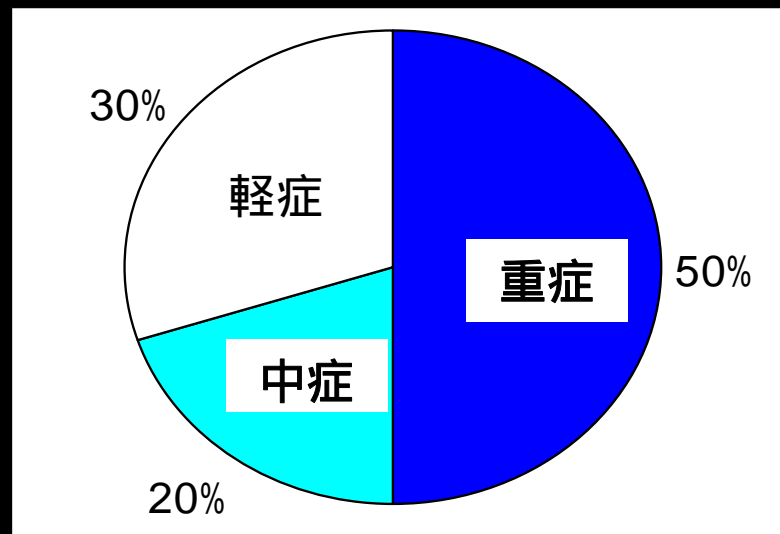
「乳酸菌とレンコンの複合物」は・・・

1. アレルギー抗体である血中IgE抗体を抑制する作用がある。
2. 花粉症の 症状を著しく改善する作用がある

# 便秘症患者の状態 (臨床テスト開始前)

- 重症患者と薬依存体質患者を主体にモニターとして採用した。
  - 人数: 合計10人
  - モニターの従来の便秘症対策
- |             |     |
|-------------|-----|
| 市販の医薬品を常時使用 | 60% |
| 健康食品を常時使用   | 30% |
| 特に使用していない   | 10% |

## 開始前: モニターの便秘症状



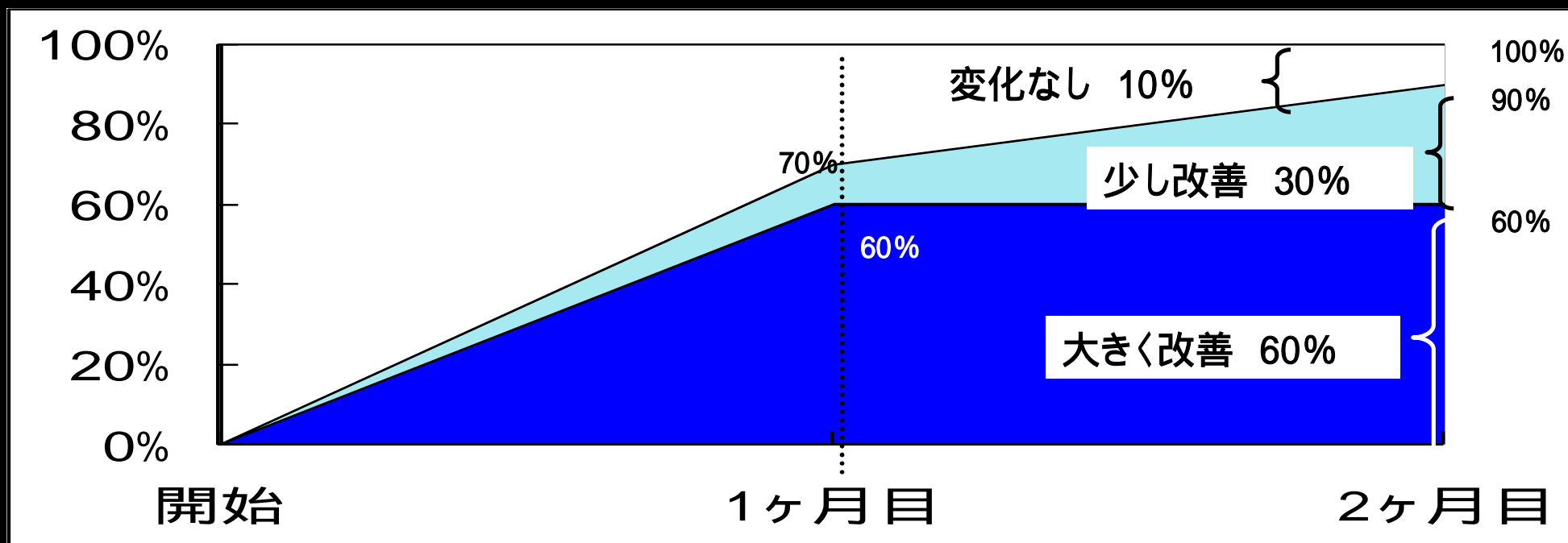
# 便秘症患者の(2ヶ月間の)経時変化

## 改善度の内訳

大きく改善とは、自然便通が戻り、薬品等を使わなくなった。排便時の苦痛が大幅に減少した。

少し改善とは、自然便通の回数が増えた。腸が動くなど明らかな変化があった。

変化なしとは、まったく変わらなかった。

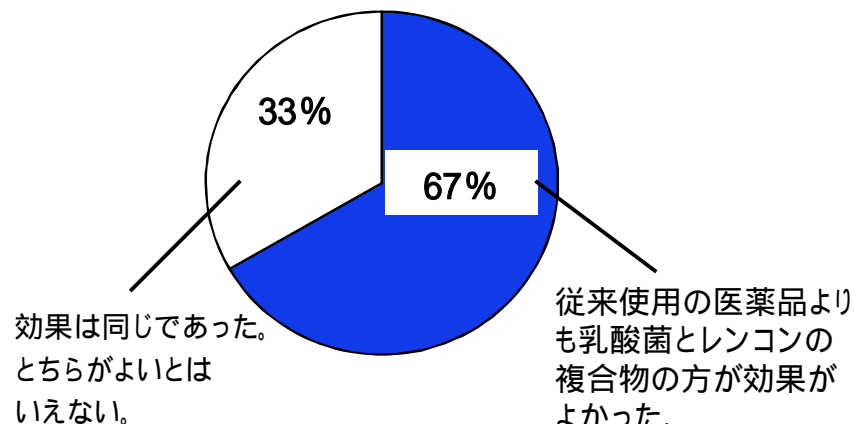


2ヶ月間で90%の人に体質改善効果が確認された。



# 便秘症の薬品依存患者の評価について

薬品依存体質患者の評価について



## 便秘症患者の薬品等への依存度の変化

- 開始時の薬品依存体質患者は、2ヵ月後に67%が従来の薬は不要(自然便通に改善)と回答した。
- 開始時の健康食品依存体質患者は、2ヵ月後に67%が従来の健康食品は不要と回答した。
- 薬品および健康食品依存体質患者のうち、従来使用しているものの方がよかったと回答したのは、わずか10%であった。

健康食品依存体質患者の評価について

